

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-36095

(P2021-36095A)

(43) 公開日 令和3年3月4日(2021.3.4)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
EO4H 1/02 (2006.01)	EO4H 1/02	2E025
EO4H 1/04 (2006.01)	EO4H 1/04	B

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2019-157568 (P2019-157568)
 (22) 出願日 令和1年8月30日 (2019.8.30)

新規性喪失の例外適用申請有り

(71) 出願人 000198787
 積水ハウス株式会社
 大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号
 (74) 代理人 100105957
 弁理士 恩田 誠
 (74) 代理人 100068755
 弁理士 恩田 博宣
 (72) 発明者 梶 彩子
 大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号
 積水ハウス株式会社内
 (72) 発明者 廣瀬 文郁
 大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号
 積水ハウス株式会社内
 Fターム(参考) 2E025 AA25 AA26

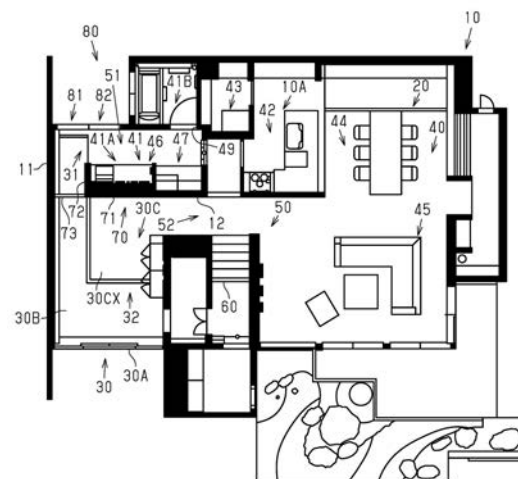
(54) 【発明の名称】 建築物

(57) 【要約】

【課題】玄関から洗面室および居室への動線が簡素化される建築物を提供する。

【解決手段】建築物は玄関30と、玄関30に隣接する洗面室41Aと、玄関30と繋がる居室45とを備え、玄関30は洗面室41Aと繋がる第1玄関部31、および、居室45と繋がる第2玄関部32を備える。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

玄関と、
前記玄関に隣接する洗面室と、
前記玄関と繋がる居室とを備え、
前記玄関は前記洗面室と繋がる第 1 玄関部、および、前記居室と繋がる第 2 玄関部を備える建築物。

【請求項 2】

前記洗面室は前記第 2 玄関部から視認できないように構成される請求項 1 に記載の建築物。

10

【請求項 3】

前記第 2 玄関部と前記居室とを繋ぐ通路を含み、
前記洗面室は前記通路から視認されないように構成される請求項 1 または 2 に記載の建築物。

【請求項 4】

前記洗面室は通り抜け可能に構成され、
前記洗面室と前記居室とが繋がる請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の建築物。

【請求項 5】

前記第 1 玄関部および前記洗面室の少なくとも一方と繋がる物干しスペースを備える請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の建築物。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は洗面室を備える建築物に関する。

【背景技術】**【0002】**

洗面室を備える建築物が知られている。例えば、特許文献 1 は玄関(22)、玄関(22)に隣接される洗面室(20)、および、玄関(22)と繋がるリビング(11)を備える住宅を開示している。

30

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2017 - 25614 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

上記住宅では、例えば、帰宅した居住者および訪問客は玄関(22)から一階部分(110)に上がり洗面室(20)を利用したあと、リビング(11)に移動する。別の例では、帰宅した居住者および訪問客は玄関(22)から一階部分(110)に上がり、洗面室(20)を利用せずにリビング(11)に移動する。上記住宅では、玄関(22)から一階部分(110)に上がったあと、洗面室(20)およびリビング(11)への動線が分岐するため、これらの動線が複雑である。

40

【課題を解決するための手段】**【0005】**

(1)本発明に関する建築物は玄関と、前記玄関に隣接する洗面室と、前記玄関と繋がる居室とを備え、前記玄関は前記洗面室と繋がる第 1 玄関部、および、前記居室と繋がる第 2 玄関部を備える。

上記建築物によれば、帰宅した居住者、および、訪問客は洗面室を利用する場合、第 1

50

玄関部から洗面室に移動できる。一方、帰宅した居住者、および、訪問客は洗面室を利用しない場合、第2玄関部から居室に移動できる。このため、玄関から洗面室および居室への動線が簡素化される。

【0006】

(2)好ましい例では(1)に記載の建築物において、前記洗面室は前記第2玄関部から視認できないように構成される。

上記建築物によれば、洗面室の利用者のプライバシーが確保される。

【0007】

(3)好ましい例では(1)または(2)に記載の建築物において、前記第2玄関部と前記居室とを繋ぐ通路を含み、前記洗面室は前記通路から視認されないように構成される。

上記建築物によれば、洗面室の利用者のプライバシーが確保される。

【0008】

(4)好ましい例では(1)~(3)のいずれか一項に記載の建築物において、前記洗面室は通り抜け可能に構成され、前記洗面室と前記居室とが繋がる。

上記建築物によれば、洗面室を利用したあとに居室に容易に移動できる。

【0009】

(5)好ましい例では(1)~(4)のいずれか一項に記載の建築物において、前記第1玄関部および前記洗面室の少なくとも一方と繋がる物干しスペースを備える。

上記建築物が第1玄関部と物干しスペースとが繋がる構成を含む場合、第1玄関部から洗面室に移動する前に物干しスペースに移動し、衣服に付着している汚れ等を掃ったあと、再び第1玄関部に戻り、洗面室に移動できる。上記建築物が洗面室と物干しスペースとが繋がる構成を含む場合、洗面室に配置される洗濯機によって洗濯された衣類を物干しスペースに容易に運ぶことができる。このため、洗濯に関する家事の効率が高められる。

【発明の効果】

【0010】

本発明に関する建築物によれば、玄関から洗面室および居室への動線が簡素化される。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】実施形態の建築物の1階の平面図。

【図2】図1の洗面室の斜視図。

【図3】図1の洗濯スペースの正面図。

【発明を実施するための形態】

【0012】

(実施形態)

図1を参照して、建築物10の一例について説明する。建築物10の一例は個別住宅または集合住宅である。図1等を示される例では、建築物10は複数の階を含む個別住宅である。図1は個別住宅の1階の室内構造20を示す平面図である。建築物10の外壁11により囲まれる領域10Aは複数の壁12により区画される。領域10Aのうち複数の壁12により区画された箇所には、室内構造20を構成する主要素である玄関30、室40、通路50、および、階段60が設けられる。

【0013】

室40、通路50、および、階段60の数、ならびに、配置は任意に選択可能である。一例では、室40はサニタリー41、キッチン42、パントリー43、ダイニング44、および、居室45を含む。サニタリー41は洗面室41Aおよび浴室41Bを含む。洗面室41Aと浴室41Bとは、開口49を介して繋がる。開口49には建具が設けられる。

【0014】

洗面室41Aはキッチン42およびダイニング44を介して居室45に通り抜け可能に構成される。換言すれば、洗面室41Aはキッチン42およびダイニング44を介して居室45と繋がる。このため、洗面室41Aを利用したあとに居室45に容易に移動できる。居室45は例えばリビング、ダイニング、リビングダイニング、および、応接室である

。図 1 等 に示される例では、居室 4 5 はリビングである。

【 0 0 1 5 】

洗面室 4 1 A は洗面スペース 4 6、および、洗面スペース 4 6 の隣りに設けられる洗濯スペース 4 7 を備える。図 2 に示されるように、洗面スペース 4 6 には、例えば、鏡 4 6 A および洗面台 4 6 B が配置される。図 3 に示されるように、洗濯スペース 4 7 には、例えば、収納棚 4 7 A、作業台 4 7 B、および、ポール 4 7 C が設けられる。収納棚 4 7 A には、タオル等の物品 9 1、および、洗濯機 9 2 が収納される。作業台 4 7 B は例えば、洗濯が完了した衣類のアイロン掛けのために利用される。ポール 4 7 C はハンガーに掛けられた衣類を吊るすために利用される。

【 0 0 1 6 】

通路 5 0 は第 1 通路 5 1 および第 2 通路 5 2 を含む。第 1 通路 5 1 は玄関 3 0、サニタリー 4 1、キッチン 4 2、および、ダイニング 4 4 に面する。第 2 通路 5 2 は玄関 3 0、階段 6 0、サニタリー 4 1、ダイニング 4 4、および、居室 4 5 に面する。第 2 通路 5 2 はサニタリー 4 1 と繋がる。このため、サニタリー 4 1 から第 2 通路 5 2 を介して居室 4 5 に移動できる。

【 0 0 1 7 】

階段 6 0 は居住者および訪問客(以下では、「居住者等」という)が建築物 1 0 の 1 階と 2 階(図示略)とを移動するために設けられる。階段 6 0 の具体的な構成は任意に選択可能である。一例では、階段 6 0 は吹き抜け階段である。

【 0 0 1 8 】

建築物 1 0 は玄関 3 0 から洗面室 4 1 A を経由して居室 4 5 に移動する動線(以下では、「第 1 動線」という)、および、玄関 3 0 から洗面室 4 1 A を経由せずに居室 4 5 に移動する動線(以下では、「第 2 動線」という)が簡素化されるように構成される。第 1 動線および第 2 動線の簡素化に寄与する主な要素は玄関 3 0 の構造である。

【 0 0 1 9 】

玄関 3 0 は出入口 3 0 A、土間 3 0 B、および、玄関ホール 3 0 C を備える。出入口 3 0 A には建具が設けられる。土間 3 0 B は第 1 玄関部 3 1 および第 2 玄関部 3 2 に区分される。第 1 玄関部 3 1 は洗面室 4 1 A と繋がる。土間 3 0 B の第 1 玄関部 3 1 は洗面室 4 1 A の床面 4 1 A X (図 2 参照) よりも若干低い。第 1 玄関部 3 1 から洗面室 4 1 A に入った居住者等は第 1 通路 5 1 を通過して、換言すれば、洗面室 4 1 A、キッチン 4 2、および、ダイニング 4 4 を通り抜けて居室 4 5 に移動できる。

【 0 0 2 0 】

第 2 玄関部 3 2 は玄関ホール 3 0 C および第 2 通路 5 2 を介して居室 4 5 と繋がる。土間 3 0 B の第 2 玄関部 3 2 は玄関ホール 3 0 C の床面 3 0 C X よりも若干低い。第 2 玄関部 3 2 から玄関ホール 3 0 C に入った居住者等は第 2 通路 5 2 を通過して居室 4 5 に移動できる。

【 0 0 2 1 】

建築物 1 0 は洗面室 4 1 A の利用者のプライバシーが確保される遮蔽構造 7 0 をさらに備える。遮蔽構造 7 0 は第 1 遮蔽壁 7 1、第 2 遮蔽壁 7 2、および、建具 7 3 を含む。第 1 遮蔽壁 7 1 は玄関ホール 3 0 C および第 2 通路 5 2 に沿って設けられる。第 1 遮蔽壁 7 1 は第 2 玄関部 3 2、玄関ホール 3 0 C、および、第 2 通路 5 2 から洗面室 4 1 A を視認できないように遮蔽する。第 2 遮蔽壁 7 2 は第 1 遮蔽壁 7 1 と繋がり、土間 3 0 B に沿って設けられる外壁 1 1 と平行に設けられる。第 2 遮蔽壁 7 2 は第 2 玄関部 3 2 から洗面室 4 1 A を視認できないように遮蔽する。建具 7 3 は例えば、第 1 遮蔽壁 7 1 と第 2 遮蔽壁 7 2 の交点と土間 3 0 B に沿って設けられる外壁 1 1 との間に設けられる。建具 7 3 は第 2 玄関部 3 2、玄関ホール 3 0 C、および、第 2 通路 5 2 から洗面室 4 1 A を視認できないように遮蔽する。建具 7 3 の一例はドア、戸、窓、障子、および、襖である。なお、建具 7 3 は省略可能である。建具 7 3 が省略される場合であっても、第 1 遮蔽壁 7 1 および第 2 遮蔽壁 7 2 によって、洗面室 4 1 A の利用者のプライバシーが確保される。

【 0 0 2 2 】

10

20

30

40

50

建築物 10 は第 1 玄関部 31 および洗面室 41 A の少なくとも一方と繋がる物干しスペース 80 をさらに備える。図 1 等に表示される例では、建築物 10 は第 1 玄関部 31 および洗面室 41 A と繋がる物干しスペース 80 を備える。物干しスペース 80 は例えば中庭である。第 1 玄関部 31 は第 1 開口 81 を介して物干しスペース 80 と繋がる。洗面室 41 A は第 2 開口 82 を介して物干しスペース 80 と繋がる。第 1 開口 81 および第 2 開口 82 には建具が設けられる。居住者等は例えば、第 1 玄関部 31 から洗面室 41 A に移動する前に第 1 開口 81 を介して物干しスペース 80 に移動し、衣服に付着している汚れ等を掃ったあと、再び第 1 玄関部 31 に戻り、洗面室 41 A に移動できる。居住者等は例えば、洗濯スペース 47 に配置されている洗濯機 92 (図 3 参照) による衣類の洗濯が完了した場合、第 2 開口 82 を介して物干しスペース 80 に移動し、衣類を干すことができる。このため、洗濯に関する家事の効率が高められる。

【0023】

建築物 10 によれば、次のような作用および効果が得られる。

居住者等は洗面室 41 A を利用する場合、第 1 玄関部 31 から洗面室 41 A に移動できる。一方、居住者等は洗面室 41 A を利用しない場合、第 2 玄関部 32 から居室 45 に移動できる。このため、玄関 30 から洗面室 41 A および居室 45 への動線が簡素化される。さらには、第 1 動線を利用する居住者等と第 2 動線を利用する居住者等がそれぞれ複数人存在する場合であっても、玄関 30 において第 1 玄関部 31 と第 2 玄関部 32 とに分かれた状態で居室 45 に移動できる。このため、例えば、土間 30 B から玄関ホール 30 C に上がったあとに第 1 動線と第 2 動線とが分岐する場合よりも、居室 45 への移動の混雑が緩和される。

【0024】

(変形例)

上記実施形態は本発明に関する建築物が取り得る形態の例示であり、その形態を制限することを意図していない。本発明に関する建築物は実施形態に例示された形態とは異なる形態を取り得る。その一例は、実施形態の構成の一部を置換、変更、もしくは、省略した形態、または、実施形態に新たな構成を付加した形態である。以下に実施形態の変形例の一例を示す。

【0025】

・洗面室 41 A の構成は任意に変更可能である。変形例の建築物 10 は洗面室 41 A が通り抜けできないように構成される。この変形例では、居住者等は洗面室 41 A を利用したあと、第 2 玄関部 32 から居室 45 に移動する。

【符号の説明】

【0026】

- 10 : 建築物
- 30 : 玄関
- 31 : 第 1 玄関部
- 32 : 第 2 玄関部
- 41 A : 洗面室
- 45 : 居室
- 52 : 第 2 通路(通路)
- 80 : 物干しスペース

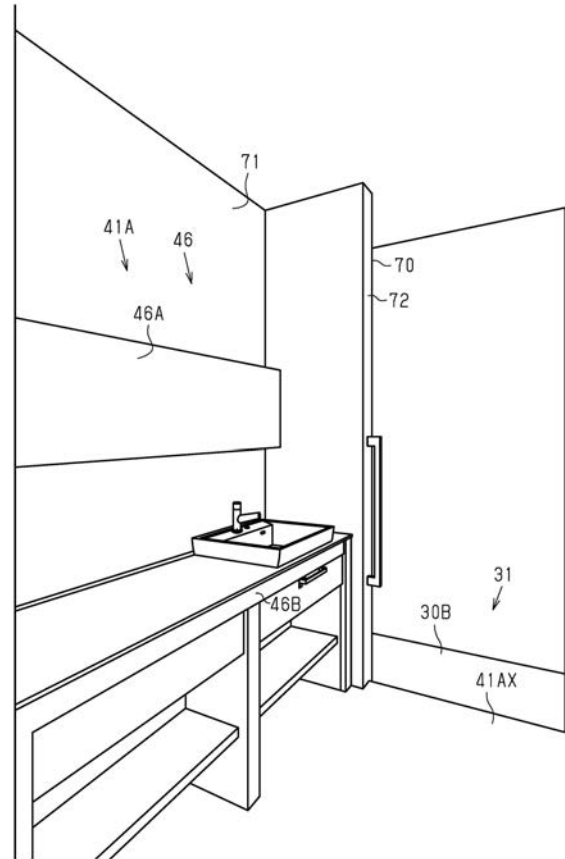
10

20

30

40

【 図 2 】



【 図 3 】

